

学会移行後初の学術大会

日本オゾン医療・審美学会（芝燁彦会長）は10月28日、東京都文京区の文京学院大学で第一回総会・学術大会を開催した。テーマは「多彩な機能を発揮するオゾンの医療への応用」。

2011年にオゾン医療研究会として発足。これまでに学術誌を6巻刊行し、臨床セミナーを4回開催。会員数の増加も踏まえ、昨年10月に、学会に発展移行したものの。

芝会長はあいさつで、今後の目標として、①オゾンに関する基礎的検索、臨床的研究によりメカニズムの解析や治療法・予防法の確立を目指す、②国民への適切な情報提供を行う、③認定医、専門医制度を構築する、④ガイドラインを作成する、⑤用語を確認・整理する、⑥オゾン学を確立する、



今後の目標を語る芝会長

⑦医療従事者への教育（セミナーなど）を行う、⑧国際交流を活発化させるなどを挙げた。

会長講演では、芝会長が2003年に国際デンタルショー（IDS、ケルン）でKaVoが発表した「ヒー

ル水、オゾンジェルなどを紹介。

社会的に薬剤耐性（AMR）への懸念が広がる中、耐性菌が出現しないオゾンの歯科応用が社会的意義を持つていることを示唆した。

特別講演では、機能水研究振興財団理事長の堀田国元氏が「機能水の温故知新」と題して、オゾン水などを含む機能水が科学的、社会的に認められる必要条件を解説。

現時点で、科学的証拠に基づき公認されているアルカリイオン水、酸性電解水などの発展過程を踏まえ、安全性、有効性に加えて、業界内部での「標準化」が社会的認知のための条件だと強調。さらに、機能水を作る機械が故障した際の「応急技術」が普及して安定供給できることなどが必要だと述べた。

特別講演、教育講演、指定講演では、外科治療、獣医分野、がん医療でのオゾンナノバブル技術やオゾンジェルの応用例などが報告された。